

# 平成29年12月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社sMedio

(東証マザーズ:証券コード3913)

<http://www.smedio.co.jp/>

平成29年5月11日(木)

本資料の無断複写、無断転用はしないで下さい

本資料の要因分析は、当社が適切と考える方法で実施している点、ご理解下さい。



Copyright© sMedio, Inc. All rights reserved.



1. 平成29年12月期 第1四半期連結決算概要(PL)	・・・ P 3
2. 平成29年12月期 第1四半期連結決算概要(BS)	・・・ P 4
3. 連結売上高推移	・・・ P 5
4. 連結売上高増減要因(計画比)	・・・ P 6
5. 連結営業利益・連結経常利益推移	・・・ P 7
6. 連結営業利益増減要因(計画比)	・・・ P 8
7. 通貨別預金残高	・・・ P 9
8. 本資料の取扱について	・・・ P10

# 1. 平成29年12月期 第1四半期連結決算概要(PL)

単位:百万円

	2016年 1-3月	2017年 1-3月	前年同期比	
売上高	305	324	19	6.4%
売上原価	144	158	13	9.4%
売上原価率	47.4%	48.7%	1.3%p	
売上総利益	160	166	5	3.7%
販管費	117	140	22	19.3%
営業利益	43	26	△16	△38.7%
営業利益率	14.1%	8.1%	△6.0%p	
営業外収益	0	2	1	281.9%
営業外費用	86	0	△86	△99.3%
経常利益	△42	28	71	—
親会社株主に帰属する 第1四半期純利益	△34	13	48	—

(注) 数値は単位未満切捨て。  
その影響で合計が一致しない場合あり。(以下のスライドも同様)

一時的な費用(本社移転に伴う、固定資産の除却等11百万円)を除くと、営業利益は前年同期と同水準となった。

経常利益は、為替リスク低減に努めたことが功を奏し、営業利益と同水準となり、前年同期の赤字から黒字に転換した。

## 2. 平成29年12月期 第1四半期連結決算概要(BS)

単位:百万円

資産	2016年 12月末	2017年 3月末	前期末比
現金及び預金	1,364	1,364	0
売掛金	80	116	36
棚卸資産	379	341	△38
その他	50	64	13
流動資産合計	1,874	1,886	11
有形固定資産	18	6	△11
ソフトウェア	57	50	△7
のれん	185	174	△10
その他	2	2	0
無形固定資産	245	227	△17
投資その他資産	27	28	0
固定資産合計	291	262	△28
資産合計	2,166	2,149	△17

### (資産)

原材料(前払いしたロイヤリティ)の払い出しにより、棚卸資産が38百万円減少。

本社移転により、有形固定資産が11百万円減少。

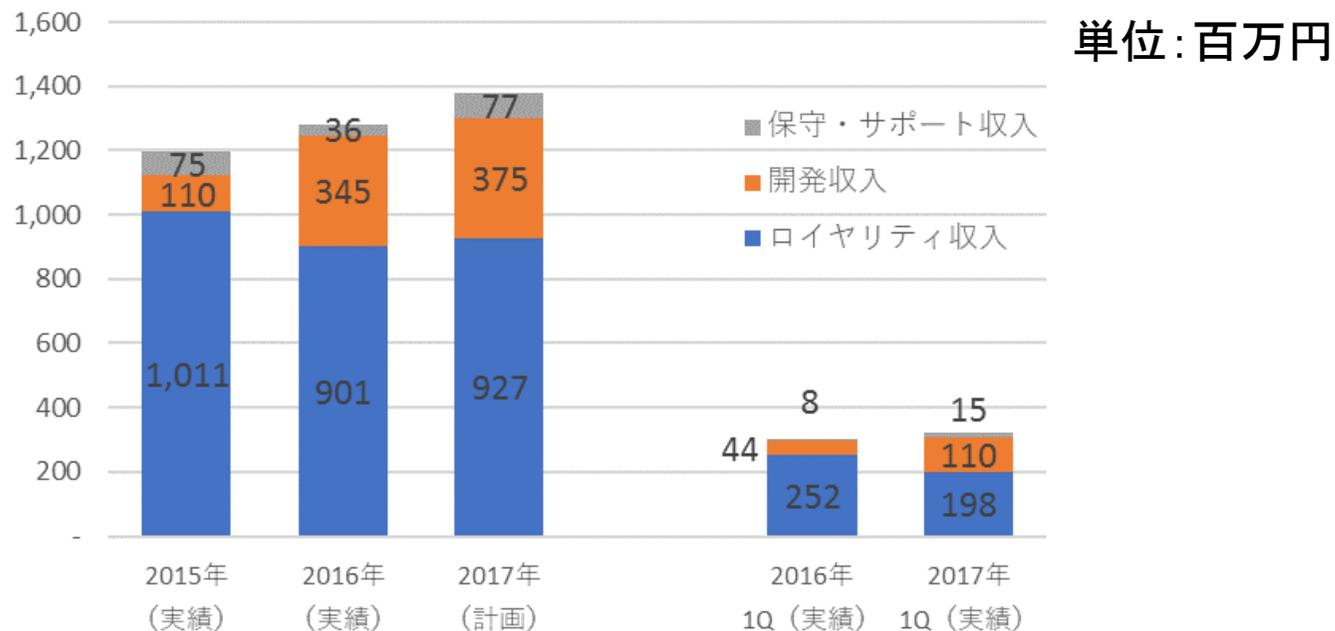
☆現金及び預金は、借入金の返済35百万円と3月計上の開発売上が多く、売掛金が36百万円増加したことなどを要因として、利益を計上しているが、顕著な変動なし。

負債・純資産	2016年 12月末	2017年 3月末	前期末比
買掛金	33	34	0
短期借入金	133	129	△4
未払法人税等	7	15	7
前受収益	19	17	△2
賞与引当金	1	5	4
その他	49	52	2
流動負債合計	245	253	7
長期借入金	249	218	△31
その他	18	9	△8
固定負債合計	268	228	△39
負債合計	513	481	△31
純資産	1,652	1,667	14
負債純資産合計	2,166	2,149	△17

### (負債)

借入金の約定返済により、長短合わせて借入金が35百万円減少。

### 3. 連結売上高推移



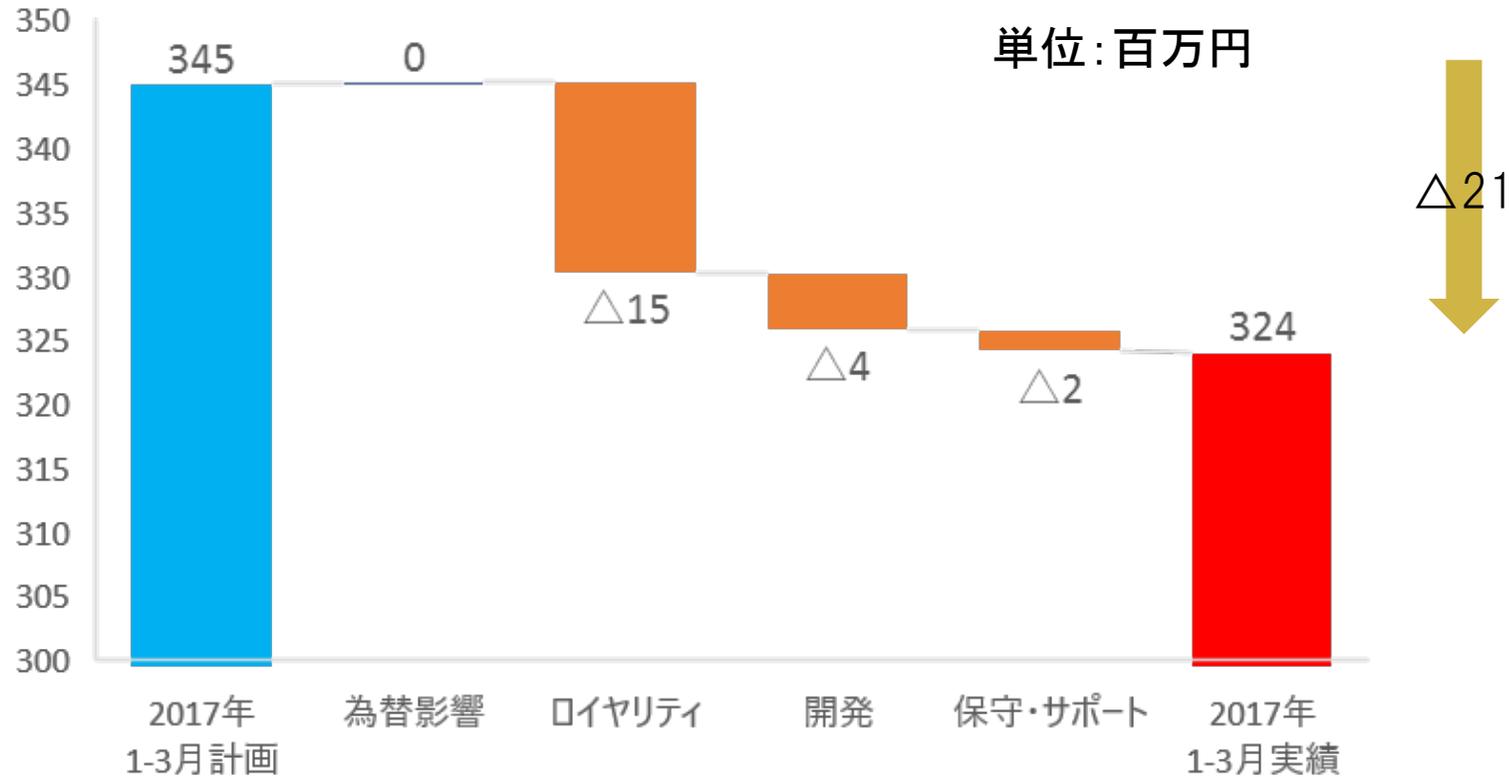
売上高合計	1,196	1,282	1,380		305	324
-------	-------	-------	-------	--	-----	-----

(ロイヤリティ収入) 米ドル建て取引が多く、円高による売上高の目減りの影響が、2017年前半には残ると見込む。

(開発収入) 2015年、2016年に子会社化した2社は、開発収入が主体であるため、増加傾向。

現在、子会社2社の製品のロイヤリティ収入への展開に注力しており、2015年に子会社化した情報スペースの製品は、ロイヤリティ収入が立ち上がったところである。

## 4. 連結売上高増減要因(計画比)

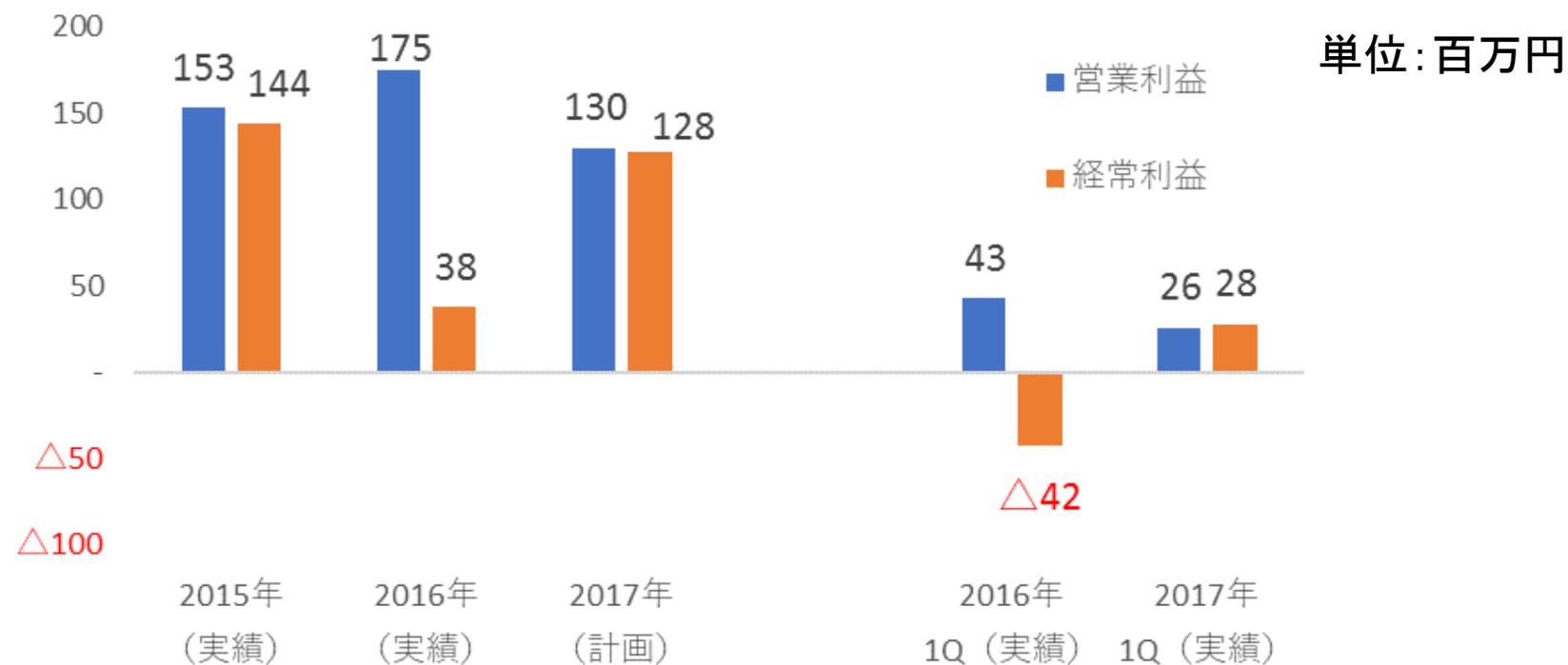


(ロイヤリティ収入) 新規ロイヤリティ製品の出荷延期などで計画比△15百万円。

(開発収入) 納品・検収の前倒しおよび後ろ倒しがあった影響などで計画比△4百万円。

(為替影響) 1-3月の外貨売上の50%程度は為替予約で円貨固定していたことで、予算比では為替の影響は抑えられた。

## 5. 連結営業利益・連結経常利益推移

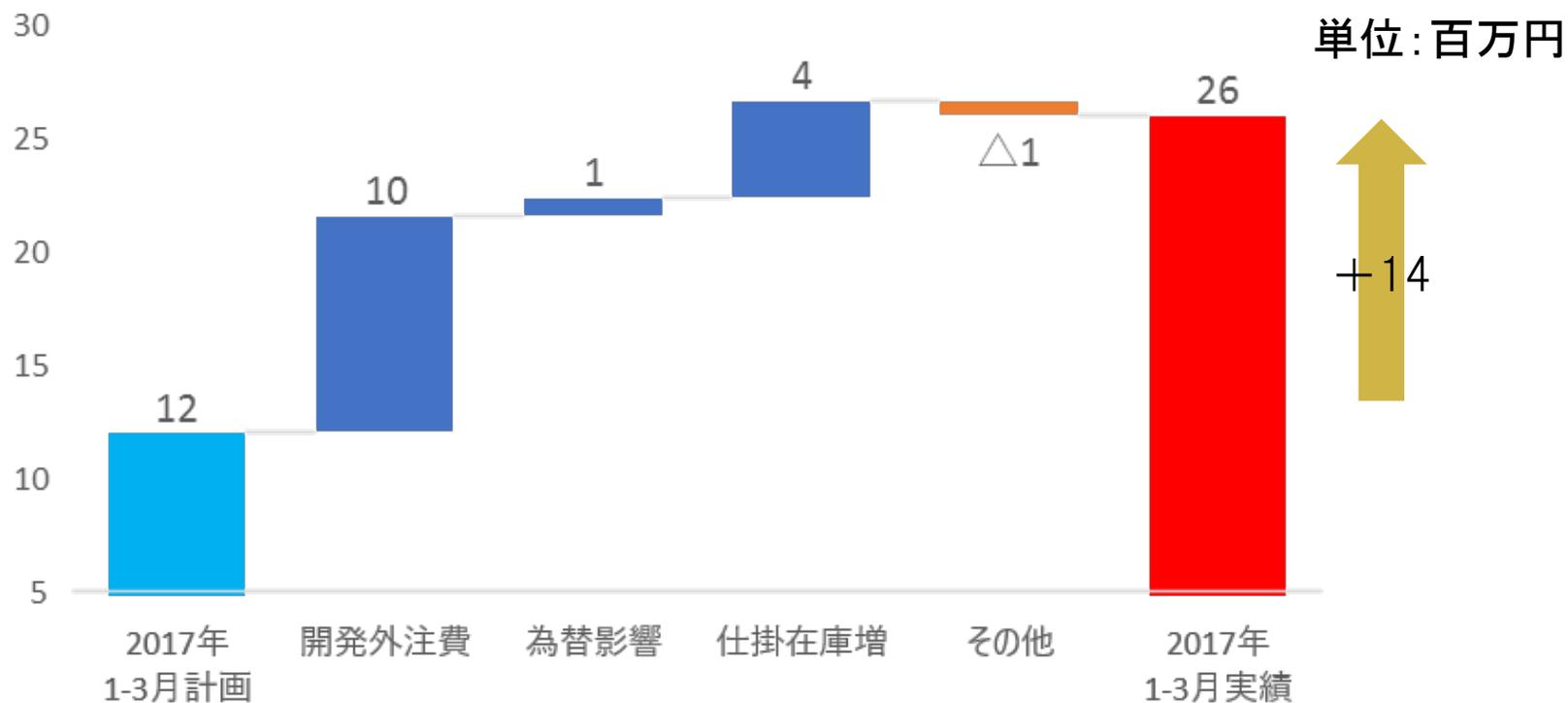


営業利益	153	175	130		43	26
経常利益	144	38	128		△42	28

(営業利益) 本社移転関連費用による下押し(当1Qで11百万円、当2Qで9百万円見込み)。

(経常利益) 外貨保有高を減らす、為替予約を活用することで、為替による影響を低減し、当1Qは黒字に転換。

## 6. 連結営業利益増減要因(計画比)



開発外注費を抑制できたことで、営業利益は計画比大幅増。

# 7. 通貨別預金残高



単位:百万円

現預金合計	1,364	1,292	1,378	1,364
-------	-------	-------	-------	-------

現預金の90%弱は日本円で保有しており、日本での米ドル保有は3%程度であり、残りの約7%は海外子会社が保有する現地通貨となっている。

当2Q以降の米ドル建ての売上に対して、2Qは約半分、3Q以降は3割弱を為替予約で円貨固定を実施済みであり、為替リスクの低減を図っている。

本資料は、株式会社sMedio(以下、「当社」といいます。)の決算情報の説明のために作成されたものであります。

本資料に記載されている計画や見通し、将来展望などは、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的と考えるものであります。これらには、様々なリスクや不確実性が内在しています。

様々なリスクや不確実性には、既知のものもあれば、未知のものもあり、当社が発表している計画や見通し、将来展望、将来の業績などが、実際の業績などと異なる結果となる可能性があり、当社として、それらの実現を保証するものではありません。